

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムは計画を立て幅広い内容を段階的に実施している。引き続きコロナ禍で物の共有に制限があるが、見せ方などを工夫し実践している。分散で親子日を実施したり、親子日がなくなった時期もあり、保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

個別支援計画については定期的な面談や連絡帳などを活用したり、限られた親子日の中でお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。情報伝達的手段として書面の活用や、必要な情報はお知らせやマチコミ等を活用し提供した。

C 非常時等の対応

感染拡大状況を考慮し避難訓練をクラスを分散してした形で実施したため、実質の一人あたりの訓練回数が減ってしまった。

D 関係機関との連携

夏季に参観の機会を設けたり、移行に向けた引き継ぎを行っている

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を行っている。職員育成についてはZoomを活用し始めたが、参加やかいさいのセンター外での研修にも参加出来る形を取り自己研鑽を図った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

プログラムが固定化されないように工夫されているかの設問に対し15%（7名）のご家庭が「どちらともいえない」と回答、「同じ活動でも見るポイントが違う」「新しいことをするのが大変そう」などの意見を頂いている。

保護者同士の連携への支援について39%（18名）の方が「どちらでもない」「わからない」「いいえ」と回答している。

B 保護者への説明

個別支援計画の説明や日常の中での職員とのやり取りを通して子どもの状態や課題についての設問ではほぼ100%のご家庭が「はい」と回答している。

情報発信の設問で8名（17%）の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

C 非常時等の対応

災害時に備え必要な訓練についての設問では100%のご家庭が「はい」と回答。保護者と一緒の形での参加が少なかったためわからないとのご意見をいただいた。

D 満足度

93%のご家庭が「満足」と回答をいただいているが、屋外の遊具が少ないとご意見をいただいた。

事業所内での分析

【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。
- コロナ禍でのプログラムを提供する際に制約があり難しい中でも、見せ方や伝え方を工夫したプログラムの実施に取り組んでいる。

【相違点】

- 引き続き感染拡大防止の取り組みを行った結果、親の会の活動等、保護者同士の情報交換する機会や情報発信が少なく保護者にはわかりにくかった。
- 非常災害時に備え、コロナ禍の状況を考慮した形での避難訓練の実施だけでなく、マニュアル等の伝達が必要であった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカンファレンスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、併用している関係機関と参観や電話相談等で連携を図っている。

事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定や情報発信の方法に工夫が必要である。

○コロナ禍で密を避けて安全に避難できる訓練の仕組みと緊急時のマニュアル等の周知が必要である。

事業所の改善への取り組み

◆クラスの保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。

◆保護者への情報発信につとめ、「利用者ハンドブック」にわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等活用し実施します。また、マチコミや季節のたより等でタイムリーな情報提供につとめます。

◆新型コロナウイルスの感染対策はもうしばらく続く為、引き続きプログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供と、屋外遊具等設備の充実に図ります。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。

◆引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、運営や体制の変更をしながらの1年となりました。また、そのような状況の中、利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じるころがありました。また、私たちが行っている支援内容については、引き続き保護者の方と様々なやり取りをさせて頂く機会を持ちながら満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムは毎月、計画を立て幅広い内容を段階的に実施しているが、引き続きコロナ禍で物の共有に制限があり展開の難しさがあった。

親子日の分散や緊急事態宣言で親子日がなくなった時期もあり、保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

個別支援計画については定期的な面談や限られた親子日の中でお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。情報伝達の手段として書面の活用も行った。必要な情報はお知らせやマチコミを活用し提供した。

C 非常時等の対応

新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し避難訓練をクラスを分散してした形で実施したため、実質の訓練回数が減ってしまった。

D 関係機関との連携

関係機関と情報共有のためのカンファを実施した。

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を図っている。職員育成については Zoom を活用し、センター外での研修にも参加出来る形を取り自己研鑽を図った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

個別支援計画に沿った支援が行われているか、プログラムが固定化されないように工夫されているかの設問に対しほぼ80%のご家庭が「はい」と回答している。

保護者同士の連携への支援について5名(50%)の方が「どちらでもない」「わからない」「いいえ」と回答している。

B 保護者への説明

個別支援計画の説明や日常の中での職員とのやり取りを通して子どもの状態や課題についての設問では100%のご家庭が「はい」と回答している。情報発信の設問で2名(25%)の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

C 非常時等の対応

マニュアル関係の周知・説明、事情災害時に備え必要な訓練についての設問では60%のご家庭が「はい」と回答。マニュアル等の説明については3名(40%)の方が「いいえ」「わからない」「どちらともいえない」と回答している。

D 満足度

30%のご家庭が「どちらともいえない」と回答している。

事業所内での分析

【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。
- コロナ禍でのプログラムを提供する際に制約があり難しい中でも工夫し、固定化しないプログラムの実施に取り組んでいる。

【相違点】

- 引き続き感染拡大防止の取り組みを行った結果、親の会の活動等、保護者同士の情報交換する機会や情報発信が少なく保護者にはわかりにくかった。
- 非常災害時に備え、コロナ禍の状況を考慮した形での避難訓練の実施だけでなく、マニュアル等の伝達が必要であった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカフアリスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、他機関のサービスを併用するケースの情報共有を図るため、関係機関と連携している。医療ケアの必要なお子さんは医療主治医と緊急時の対応等の確認を行っている。

事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定や情報発信の方法に工夫が必要である。

○コロナ禍で密を避けて安全に避難できる訓練の仕組みと緊急時のマニュアル等の周知が必要である。

事業所の改善への取り組み

- ◆クラスの保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。
- ◆保護者への情報発信につとめ、「利用者ハンドブック」にわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等活用し実施します。また、マチコミや季節のたより等でタイムリーな情報提供につとめます。
- ◆新型コロナウイルスの感染対策はもうしばらく続く為、引き続きプログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供を行います。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。
- ◆引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、運営や体制の変更をしながらの1年となりました。また、そのような状況の中、利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じるところがありました。また、私たちが行っている支援内容については、引き続き保護者の方と様々なやり取りをさせて頂く機会を持ちながら満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

事業所名 横浜市戸塚地域療育センター 医療型児童発達支援

担当者 園長 荻野 かおり

職員による自己評価

A 「適切な支援の提供」について

これまでに引き続き、担任および児童発達支援管理責任者、心理等多職種と連携し、お子さんひとり一人に対して多面的な評価を実施し、カンファレンスや日々の振り返りを通じて、お子さんに合わせたプログラムと支援方法を検討している。コロナ禍で感染対策上の制限は多かったが、その中で実施可能な集団活動やプログラムの検討を行い、昨年度より柔軟な支援が提供できた。

B 「保護者への説明等」について

引き続きコロナ禍のため、密を防ぐ対策をとりながら、少人数での参観・懇談を定期的に設定したり、少人数で分散してのVTR視聴（動画を作成）の実施、また緊急事態宣言時には動画配信に切り替えるなどの工夫を行い、必要と思われるプログラム提供に務めた。家族講座は、Zoomで通園との合同開催を試みた。

C 「関係機関との連携」について

園の先生方向けの療育参観週間は少人数での分散実施を予定していたが、緊急事態宣言発出のため一部実施できなかった。園から対応について相談があった場合は園訪問を実施したが、特に希望がない園との連携はなく、日々生活をしている園での様子の把握や相談がしにくかった。

E 「非常時等の対応」について

障害特性に合わせて事前の配慮を行い、避難訓練を実施している（紙芝居の作成や、感覚過敏に配慮）。コロナ禍のため、実施方法、時期に制限があったが、例年よりも早い時期に前倒しして実施し、安全に務めた。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

「客観的分析の上で個別支援計画書に沿った支援が行われているか」について、9割以上の方に満足と回答いただけており、コロナ対策のために実施できなかった支援についてのご意見は見られなかった。“プログラムが固定化しないように工夫されているか”といった設問については、“興味の度合によって調整してくれている”等の特性に合わせた支援をしていることについてご理解いただけているようでした。

B 「保護者への説明等」について

個別支援計画書や個別面談を通しての説明には9割以上の方に満足と回答いただけていた。保護者同士のつながりへの支援にかんしては、ご希望はありつつも、コロナのため配慮されつつ実施されているとの記載の両方が見られた。

C 「非常時の対応」について

“必要な訓練はされている”に100%解答をいただいたが、お一人“定期的ではない”とのご意見をいただいた。

D 「満足度」について

ほぼ全員の方が“満足”とご回答くださり、心強くと記述いただけている。一方で、“園のカリキュラムに参加させたい”と、利用曜日のご希望についてご意見が見られた。

事業所内での分析

【共通点】

- お子さんに合わせたプログラムができており、お子さんが登園を楽しみにしてくれたり、保護者が支援サービスについて満足したりしていただいている。
- 保護者支援について、コロナ禍で十分にできていない点がある。しかし、様々な制約の中、実施方法を見直すなど、工夫して実施した点については、ご理解いただけているようでした。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○一人ひとりのお子さんのアセスメントに基づいた支援を実施している。

- ・担任および児童発達支援管理責任者、心理職や作業療法士等の多職種と連携し、多面的なアセスメントを実施している。
- ・カンファランスや日々の振り返りを通じて、集団場面においても、お子さんに合わせた個別性の高いプログラムと支援方法を実施している。

○保護者支援の実施方法について、工夫することができている。

- ・少人数で分散実施することで、参観日・懇談日の確保、VTR 視聴や動画配信などの利用し、お子さんの様子や特性、対応方法についての共有ができる工夫をしている。

事業所の改善点

○感染対策をしながらも、工夫によりプログラムが実施できるように努めます。

- ・この2年間の経験を活かし、こども同士のやりとりや保護者教室の実施、保護者と話す機会を保障できるように努めます。
- ・幼稚園・保育園との連携については、引き続き、分散での園の先生向け療育参観を計画します。感染状況により中止する可能性を想定し、別の連携方法を模索します。

○保護者の方への丁寧な説明に努めます。

○支援の向上をめざし、職員の育成に努めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、皆様のご理解・ご協力のもと、必要な支援プログラムを提供できるよう、計画的に実施してまいりましたが、緊急事態宣言時にはやむを得ず中止となるプログラムもありました。

しかしながら、感染対策や予定変更にもご協力くださり、またアンケート結果からは、皆様にご理解くださっていたこと、もっと療育を受けたかったとの嬉しいお声をいただき、心より感謝申し上げます。

皆様からのご意見を改善につなげ、さらに工夫を重ねながら、より質の高い療育をめざして取り組んでまいります。